

鬼	北上市立	館
	の	
だ	よ	り
第29号		



鬼すむまち
北上を照らす
朝日を迎える
北上鬼ッズ



恒例となった夏の行事、わんぱく講座「鬼っこ合宿」。今年は8月6日から8日にかけて市内憩いの森を会場に、北上の鬼っこたちが元気いっぱい野山をかけまわりました。ナイトハイクに早朝ハイクと眠い目をこすりながら見たまっ暗な森と輝く夜景、まぶしい朝日は大切な思い出になりました。かまど作りも初めてだったけど、みんなで協力したご飯はカクベツ！



僕もわたしも「ハイ、おかわり！」

鬼の館 '08 上半期をふりかえって

企画展22 「火面展～怒り・恐れ・祈りの造形物～」

8月3日(日)～9月23日(火)

宮城県北部から岩手県南部地域に分布する民間信仰の一つである“かまど神”の造形に関心を持ち、現在、鬼面の造形彫刻家として活動する千葉照男さんの作品の中から「火面」と題された仮面作品を中心とした62点を展示しました。

千葉さんは宮城県大崎市在住で、市内の旧分校にアトリエ「千の葉っぱ」を構え、創作に取り組むほか、個展なども精力的に行っています。また、“廃材を活用して”をテーマに活動する「伊達な木彫り塾」の講師も務めています。

千葉さんの独特な作風技術によって生み出された火面は、怒りの表情の中にも深い祈りの信仰心をたたえるものなど実に味わい深いものばかりで、見る者を引きつけて離しません。

こうした作品の数々に触れることで、「鬼」の



形相である忿怒形の意味を追求するとともに、希薄化した信仰心における民間の鬼に対する精神像を今一度見直してみる一つの良い機会になったのではないのでしょうか。

特別展 「力丸館長 追悼展

～化学者の目と仮面文化～

2月24日(日)～7月16日(水)

今年2月に亡くなられた力丸館長を偲び、特別展が行われました。

館長が各国を歩いて収集した450点にもものぼる仮面コレクションを一挙に公開し、また生前の館長の姿も合わせて展示いたしました。

開催期間を延長したことで、市内の方から遠方の方までより多くの方々に鑑賞していただくことができました。



特別展・施設開放事業

「木目込人形展」

4月27日(日)～5月17日(土)

鬼の館では、サークル活動や個人活動などを通じて制作された作品を公開する場として、企画展示室をご利用いただいています。

今回は少し趣向を変え、エントランスホール内玩具コーナーにおいて日本芸術人形協会北上支部による木目込人形の展示を行いました。

同協会支部長の那須清一さんとその教え子の作品50点を紹介しました。ひな人形や武者人形など種類は様々ですが、たとえ同じ型でも作り手によって少しずつ違う表情が魅力の一つです。どの作品も作り手の熱意と愛情が感じられる素晴らしい出来栄に、たくさんの方々が魅了されていました。

また、期間中は那須さんによる実演や作品の販売なども行われ、子供から大人まで楽しめる展示となりました。

*芸能公演

4月から10月までの第4日曜日に開催している鬼の館芸能公演。

市内の各保存会の協力を得て、約1時間のステージをご鑑賞いただけます。当館学芸員の解説付きです。鑑賞無料ですので、お気軽にご覧下さい。



*大乘神楽大会

今年で第14回目をむかえる大乘神楽大会。今年北上市内で神楽を継承する7保存会の協力により「神おろし」から「神あげ」まで全14演目が披露されました。



少し汗ばむような陽気の中、激しく踊られる伝統的な舞の数々に集まった多くの観客が魅了されていました。

少し汗ばむような陽気の中、激しく踊られる伝統的な舞の数々に集まった多くの観客が魅了されていました。

*こどもの日わくわくイベント

気軽に楽しめる創作活動などを通じて“鬼”に対する理解を深めようと、5月5日のこどもの日に開催しているイベント。今年毎年大人気の鬼剣舞の装束を身に付ける「鬼に変身」コーナーをはじめ妖怪風船やお面の絵付けに加え、少年少女発明クラブさんによる工作コーナーや北上アマチュアマジッククラブさんのマジックショー、県立黒沢尻工業高校さんによるロボット鬼剣舞ステージにピエロの会の南京玉すだれや紙芝居など、1,000人を超える来館者を迎えにぎやかに行われました。5月5日は小中学生入館無料です。



*夏休みワークショップ



今回の親子ワークショップのメニューは、「切り絵鬼剣舞」、「鬼剣舞面づくり」、「ランプシェード」の3コース。切り絵には前回の冬休みワークショップでもご指導いただいた紫波町在住のペーパーバイクアーティスト石田義信さんを講師にお招きし、

前回より少しレベルアップした切り絵鬼剣舞を制作しました。恒例の面づくりも「これで全色そろうよ。前よりうまく作らなくちゃ」と、何度も足を運んでくださる親子も、世界でただ一つオリジナルのお面作りに励みました。

下半期のお知らせ

- | | | |
|-------|--------------------|--------------------|
| 特別展 | ◆鬼の水・良薬と毒薬 | 10月5日(日)～12月7日(日) |
| | ◆匠の伝承展 | 12月21日(日)～2月22日(日) |
| | ◆平成20年度収蔵資料展 | 平成21年3月8日(日)～ |
| 鬼学講座 | 10月18日(土) | |
| 芸能公演 | 10月12日(日) 三館鬼剣舞保存会 | 10月26日(日) 谷地鬼剣舞保存会 |
| 福豆節分会 | 21年2月1日(日) | |

博物館実習

例年、大学からの依頼により、博物館などで働く専門職員「学芸員」の資格取得を目指す大学生の実習を行っています。今年は2名の実習生が一週間、資料の取扱いや施設運営について学んだり、石碑の拓本とりや事業企画立案など、多岐にわたる内容を熱心に学習しました。ここで、実習を終えての感想をご紹介します。



盛岡大学

文学部社会文化学科 佐藤 宏 樹

今回6日間という大変短い期間ではありましたが、鬼に関する実に多くの事を体験し、学ぶ事ができたと思います。大学の授業では扱わない史料などを実際に触れ、その扱い方を学び、また、学芸員の仕事をするなど充実した実習でした。

特に実習中は作業が多かったこともあり飽きることなく実習に取り組みました。実習が始まるまでは不安を感じることがありましたが、館内の様々な仕事に触れることでその不安も解消し、来館者として来ただけではわからない学芸員の裏の仕事を知ることが出来ました。

学芸員の方が自身の研究、資料保存と整理に加え行事の企画運営と、多岐に渡る仕事を見えないところでもこなす姿を見て、学芸員という仕事の大変さを感じました。その反面、館の方々全員が地域のことを考え、自分の研究分野や学芸員という仕事に信念を持って、互いに助け合いながら働くことも分かり、学芸員の仕事と博物館に改めて魅力を感じることができた実習でした。お忙しい中貴重な時間をさいてご指導してくださり、本当にありがとうございました。

この実習で得たものをこれから大きく生かせるよう、視野を広げて物事に取り組めるように頑張りたいと思います。



盛岡大学

文学部児童教育学科 小笠原 彩

鬼の館での1週間は本当に短くて、気付けば実習の半分の日数、そして最終日になっていました。実習では、丁寧に指導していただけて、「堅苦しいもの」ではなく、「楽しいもの」と思って過ごすことができました。

また、学芸員の仕事内容や大変さ、やりがいなどを知ると同時に、社会に出てから役立つことも多く学ぶことができました。他にも、博物館が思っていたよりも賑やかな所なのだと知り、そんな鬼の館をつくっているのは、高橋館長や鈴木上席学芸員をはじめとする職員の対応や心情が温かいからなのだと感じました。そして、嬉しかったことは、高橋館長をはじめ、職員の方々に実習生といえども、鬼の館の「ファミリー」として受け入れてもらい、昼食に手巻き寿司を食べたり、高橋館長の還暦を祝ったりしたことです。お陰で気付けば緊張も無くなっていました。

本当に実習の1週間は短かったのですが、とても充実した時間でした。鬼の館での実習で、高橋館長をはじめ、鈴木学芸員、職員の方々から学んだたくさんの方々のことを、これから先、様々な場面で活かしていきたいと思っています。短い期間ではありましたが、温かく指導してくださって、ありがとうございました。

盛岡大学

文学部社会文化学科 菊池 真美



インターンシップ

就業体験学習

学生が職業生活への理解を深めることを目的として、将来に関連のある就業体験を行える制度です。今年は2人の学生が体験を通し学んでいきました。

岩手県立大学宮古短期大学部

経営情報学科 照井 尋弓



私は今回のインターンシップを通して、博物館で行っている多くの業務（受付業務や、資料の整理、企画展示業務、一般成人への出前講座、鬼っこ合宿など）を行わせていただきました。そして何を行うにしても、幅広い知識が必要であることを実感し、学校とは全く違う学習の機会になりました。鬼とは優しい面と怖い面を持つ、人間でもあり神様でもあるそうです。多くの人に来館して見ていただきたいと思います。

初めは凄く緊張していましたが、職員の皆さんの優しさと温かさに触れ、楽しみながら研修させていただくことができました。1日1日が充実していて6日間はあっという間でした。私は郷土芸能にあまり関心がありませんでした。しかし、鬼の館で学んでいくと奥が深いなと思いました。職員の方々には多大なご迷惑をおかけしてしまったかとは思いますが、私にとっては貴重な体験の数々でした。ありがとうございました。

新館長ごあいさつ

“貴重な財産を引き継ぐべき責任”

館長 高橋 勝

前号でもお知らせしましたが、去る2月7日に故力丸館長が突然ご逝去され、鬼の館にとって偉大なる館長を失うこととなり、途方に暮れているところであります。

その後任として、5月1日付けで館長の職に着任いたしました。

私は、短い期間ではありましたが前館長から学び得たこと、そして残された貴重な財産と遺志を引き継ぐべく責任を果たしていかなければと決意を新たにいたしております。

御蔭さまでH19年度の入館者が前年比472人増の25,642人となり、右肩下がりの状態にようやく歯止めがかかりました。

これも一重に地域の方々、リピーターのご協力の賜物であり感謝申し上げます。

また、今年度の前期事業も特別展、企画展、芸能公演、神楽大会、鬼っこ合宿、そして鬼学講座等多数の参加をいただきまして順調に推移していることに改めて敬意と感謝いたします。

鬼学講座につきましては、先般移動研修として山形県米沢市の「泣いた赤鬼」の代表作で知られております童話作家浜田広介記念館、上杉謙信ゆかりの戦国武将、直江兼続を描く来年のNHK大河ドラマ「天地人」で活気づく上杉博物館での研修を通じ受講生の方々は他の博物館を直に見られ何か感じ取るものがあつたのではないかと感じております。

なお、民間から広く会員を募り互いの情報を共有し、協働による鬼情報の発信拠点としての役割を活性化させ、底辺の広がりを持つことで観光的側面の拡充を図ることを目的に、鬼学講座の受講生を中心に「鬼の館友の会」設立の準備を進めております。

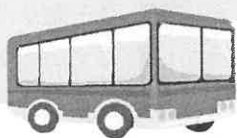
今後も、多種多様な企画をしながら皆さんに親しまれ気軽に立ち寄って頂ける館としてなお一層努力して参りますので、鬼の館に対し前館長同様更なるご指導とご教示賜りますようよろしくお願い申し上げます。



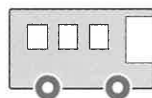
山形県

鬼学講座 移動研修

9月4日(木)～5日(金)



東置賜郡高島町



(浜田広介記念館)…(阿久津八幡神社)…(小野川温泉)



広介と「泣いた赤鬼」

鬼の館 上席主任学芸員 鈴木 明美

鬼学講座は、生涯学習の一環として、高校生以上の年齢層を対象に開催している全5回で構成する鬼についての系統的専門学習講座です。

本年度は、「口承文芸と鬼」と題して、民話や昔話、伝説や童話などに登場する「鬼」について、その時代背景やそれぞれの口承文芸が有す意義や役割を民俗学者や民話収集家、大学教授等による講義を聴講し、「鬼」の源姿について探求しました。

この度の現地研修は、山形県高島町に生まれ、童話作家として知られる故浜田広介氏(1893～1973)が昭和8年(1933)に発表された創作童話「鬼の涙」を原作として改題・改筆され、昭和21年(1946)に発表された「泣いた赤鬼」に登場す

る「赤鬼と青鬼」の姿が読む側の人々に与える精神観や作者の鬼に対する精神観の追及をテーマに「浜田広介の鬼の世界」と題して開催したものです。

訪れた先は、“まほろば・童話の里「浜田広介記念館」”。この館は、指定管理者制度を導入して運営活動をしている記念館である。ここで調査研究員である富樫徹先生の講義を円形状の多目的ホールをお借りし聴講することとなった。



浜田広介記念館 調査研究員 富樫徹氏

最初に童話「泣いた赤鬼」をスライド化した童話映像で鑑賞した後、“鬼と浜田広介～広介の精神を探る～”と題して広介を取り巻く生活環境、特に父為助と母やすとの関係によって人格形成期に養われた「愛と善意」や「外柔内剛」の精神観と芸術至上主義に徹した思想観、さらには馬場重行論文を活用しての赤鬼と青鬼が表現する問題点の検証など浜田文芸のひとつである「泣いた赤鬼」を多面的な面から分析した内容を聴講した。



研修風景

米沢市

(明寿院)…(笹野民芸館)…(米沢上杉博物館)
…(上杉家廟所)



この講義から広介の創作童話「泣いた赤鬼」の中に秘める「愛と善」の精神観は、西本鶏介によって説かれるところの、単に“無償の愛に生きる”ということとは、善意などといった倫理的なものではなく、自己否定につながるほど奥深い哲学的なもの”であるという思想観が広介の内在的精神観にあり、この精神観のもとで集約され創作された奥深い作品であることが理解できた。ただひとつ言えることは、広介が培った深層心理の中に秘められた鬼への精神観は、単に怖い恐ろしいという畏怖の概念ばかりではなく、「愛と善」の源となる敬いの心、いわゆる畏敬の念との葛藤こそが、複雑に絡み合うことで、この心を投影し、鬼特有の両義性に反映した奥深い創作童話であると私は理解した。私にとっても受講生にとっても今回の移動研修は、鬼の源象を探る上で、意義深い研修となったひとつであろう。



阿久津八幡神社前にて

はじめまして よろしくお願ひします

4月1日から新採用で北上市役所に入り、鬼の館に配属することとなりました千田幸江と申します。



私は北上の専門学校に通っていたのが縁で、地元の奥州市ではなく北上市に就職しました。いざ働き始めてみると、2年間通っていた土地とは言え、やはり地元ではないだけに地名一つとっても知らないことが沢山あって戸惑うこともありましたが、職場の先輩方や地域の皆さんに助けをいただきながら、まずは何とか研修期間である半年を無事に過ごすことが出来ました。

しかし、まだまだ北上のことや鬼について、また鬼剣舞を始めとした全国の芸能について等など、いろいろな分野において知識不足な点が多いので、これからは正職員としてより一層自覚を持った行動を心がけるとともに、幅広い知識を養うべく日々勉強していきたいと思っておりますので、皆様どうぞ宜しくお願いいたします。

地震被害ゼロ

たくさんのお見舞いのお手紙、お電話ありがとうございました
元気に開館中 ☆

最近の館から…



6年以上前、野村たかあきさん（木版画家、木彫家、絵本作家）の指導を受け、「われらわんぱく隊」に参加した小学生たちが遠野の粘土を用いて制作したレリーフ、テラコッタたちが、館の庭をにぎやかに飾っています。

鬼の里だより

●企画展・特別展
 〈特別展〉平成19年度特別収蔵資料展
 「力丸館長追悼展～化学者の目と仮面文化～」
 2月24日(日)～7月16日(水) 9,106人
 〈特別展〉「木目込人形展」
 4月27日(日)～5月17日(日) 3,005人
 〈企画展〉企画展22
 「火面展～怒り・恐れ・祈りの造形物～」
 8月3日(日)～9月23日(火) 4,396人

●鬼の館芸能公演
 4月27日 相去鬼剣舞 観客 141人
 5月4日 岩崎鬼剣舞 観客 226人
 5月25日 御免町鬼剣舞 観客 86人
 6月8日 鬼柳鬼剣舞め組 観客 326人
 6月22日 滑田鬼剣舞 観客 172人
 7月27日 口内鬼剣舞 観客 87人
 8月14日 北藤根鬼剣舞 観客 168人
 8月24日 二子鬼剣舞 観客 118人
 9月28日 柳鬼鬼剣舞 観客 174人

●大乘神楽大会
 6月8日(日) 観客 326人

●鬼学講座
 第1回 7月26日「口承文芸派生の背景」

元岩手県立博物館館長 金野静一氏 受講者 41人
 第2回 8月17日「昔話調査収集活動を通して」
 元岩手県文化財愛護協会会長 菊池悟氏 受講者 32人
 第3回 9月4日～5日移動研修「浜田広介の鬼の世界」
 受講者 17人
 第4回 9月21日「伝説・童話・昔話の違いとねらい」
 元岩手県立博物館館長 金野静一氏 受講者 34人

●鬼っこわんぱく講座
 こどもの日わくわくイベント
 5月5日 参加者 1,010人
 鬼っこ合宿「ボくら鬼っこ探検隊
 ～夏だ キャンプだ 北上鬼ッズ! in憩いの森～」
 8月6日(水)～8日(金) 参加者 32名

●鬼ッズ・プレイミュージアム 4月1日～9月30日
 和紙面づくり 参加者 252人
 出前講座 3件(5回) 参加者 201人
 〈夏休みワークショップ〉
 切り絵鬼剣舞づくり 参加者 36人
 鬼剣舞面づくり 参加者 33人
 ランプシェードづくり 参加者 32人

利用案内

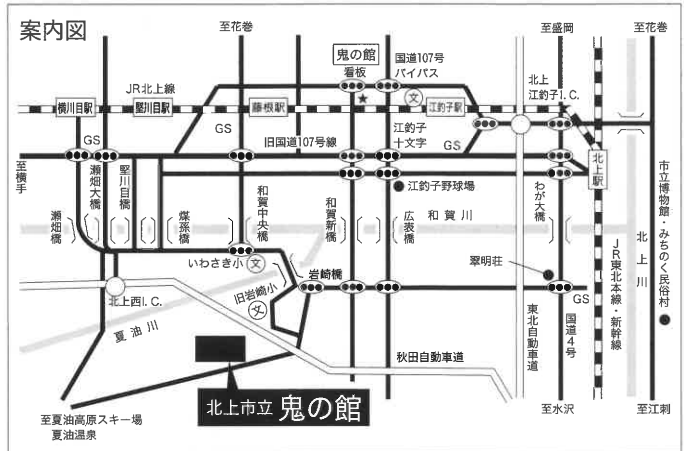
開館時間 午前9時から午後5時まで。
 なお、入館は午後4時30分まで。
 休館日
 ・12月～3月の月曜日
 ・12月～3月の国民の祝日の翌日
 (土・日・月曜日の場合は火曜日)
 ・館内整理日(11月27日～11月30日)
 ・年末年始(12月28日～1月4日)
 ・臨時休館日(5月27日、8月26日)

入館料

一般	350円 (300円)
高校生	240円 (180円)
小中学生	170円 (120円)

()内は20人以上の団体料金。
 下記の場合、市内小中学生は入館料が免除になります。

●毎週土・日曜日
 ●学習活動で申請利用する時
 交通案内
 ●JR北上駅西口よりバスで25分。
 煤孫経由横川目行、瀬美温泉行「岩崎橋」下車徒歩10分。
 ●JR北上駅より車で20分。
 ●東北自動車道「北上江釣子I.C.」、秋田自動車道「北上西I.C.」よりともに車で15分。



北上市立鬼の館だより

第 29 号 2008.9.30

編集・発行 北上市立鬼の館

〒024-0321 北上市和賀町岩崎16地割131番地
 TEL 0197(73)8488 FAX 0197(73)8508